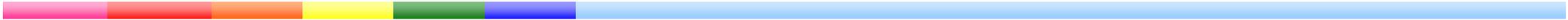




# 2007年3月期1Q 決算説明資料

株式会社ドリコム





# 2007年3月期1Q決算報告



## 2007年3月期1Q ハイライト

業績、投資ともに想定通りに推移。引き続き事業拡大を続ける。

1. 1Qの業績は、当初計画どおり順調に推移。

\* 2007年3月期予算 上期 売上5億円 経常利益0円 通期 売上15億円 経常利益4億円

2. 中長期成長に向けた上期の重点投資も順調に進行。

\* 本社移転と統合、データセンターの統合、採用、既存サービスの拡充、新サービス開発

3. 業界全体的に人材不足が続く中、新卒採用、中途採用ともに順調。

4. ドリコムプログシステム、ドリコムプログオフィスは想定を上回る形で推移。

5. ドリコムCMSが想定よりも下回る。

\* 要因は人材の社内移動による点及びパートナーとのパッケージの開発に注力した点の2点  
どちらも短期的な要因。



## 2007年3月期1Q 連結業績サマリー

売上高:前年同期比69%増加 営業利益:積極的投資により想定通り推移

(単位:百万円)	当四半期	前年同期	前年同期比	前四半期	前四半期比	増減要因
売上高	171	101	69%	291	-41%	前年同期比ではプロゲオフィスが大幅増加
売上総利益	99	67	48%	202	-51%	開発人員の増加に伴う売上原価の増加により粗利益率は低下
販管費	153	35	341%	86	78%	主に人員増加に伴う増加
営業損益	55	32	-	116	-	
経常損益	51	31	-	90	-	
当期純損益	40	18	-	45	-	

なお、前年同期の数値については、監査法人のレビューを受けておりません。

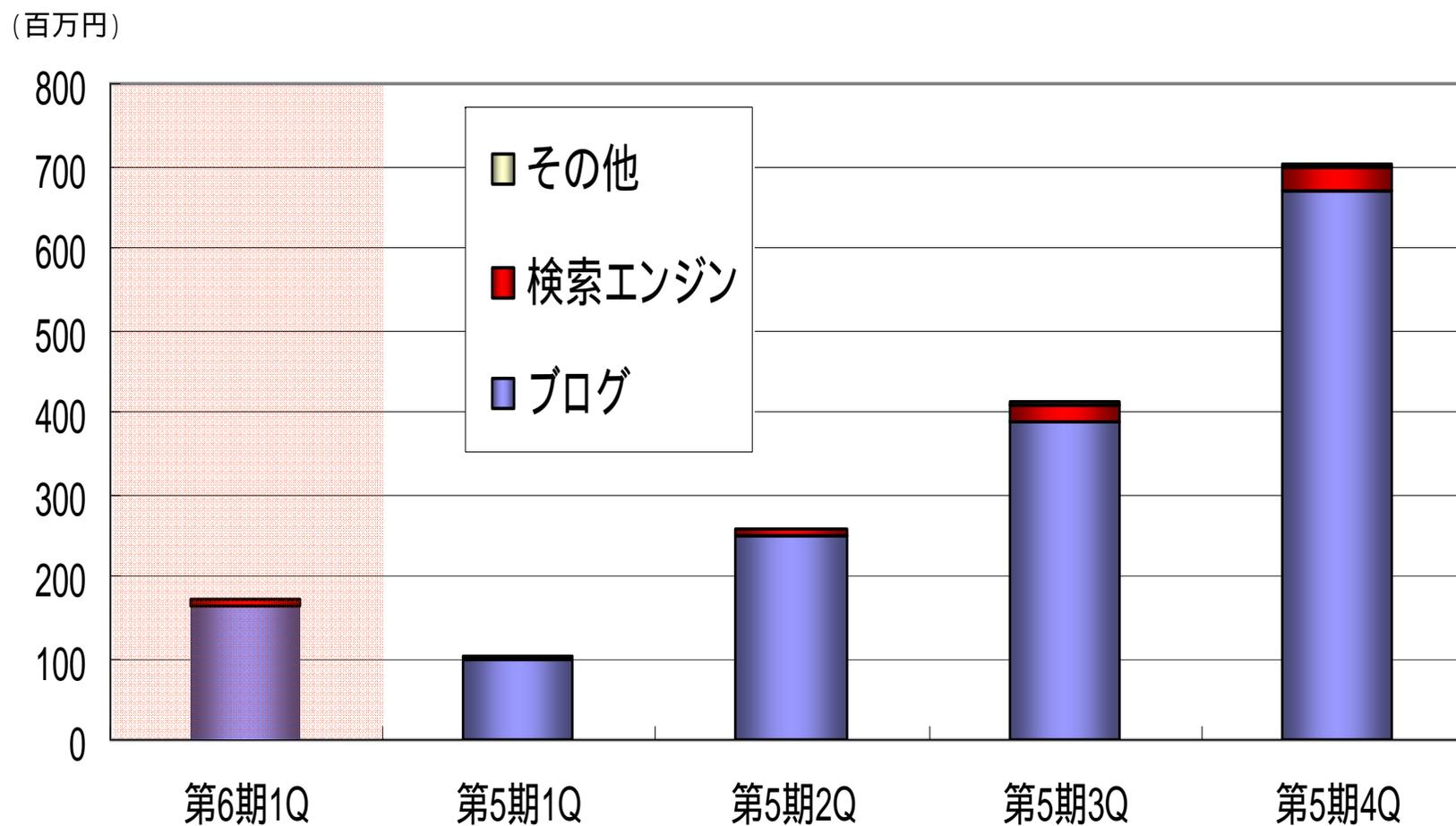
## 2007年3月期1Q 投資活動の進捗

下期、来期以降を見据え、投資活動が順調に推移

投資テーマ	目的	進捗
東京支社の移転と本社移転	事業拡大	4月に約4倍のオフィスに移転。6月に本社を東京に
京都本社を東京へ併合	マネージメント強化	3段階に分け移転を計画。8月中旬に移転完了予定
データセンターの統合	コスト削減	6月末時点で43%、7月末時点で62%が移転完了
新卒採用の開始	中長期採用戦略の一環	30名採用枠に内定承諾32名が決定
法人向け新商品の開発	新規事業の立ち上げ	ドリコムSNSをリリース(7月) 次の新商品の開発を検討
法人向け拡販商品の開発	事業拡大と利益率の向上	ブログオフィスの拡販版を開発
一般ユーザー向け新サービスの開発	ネット広告関連事業の拡大	ソフトウェアコンテストの開催、ドリコムアカウントのリリース(7月)、モリス( 版)のリリース(8月) さらに新サービスの開発中
新広告配信サービスの開発	広告配信サービスの拡大	版の社内運用開始

## 2007年3月期1Q 連結売上高の推移(四半期)

2007年3月期1Q売上高:前年同期比69%増加



## 2007年3月期1Q 連結財政状態の推移

(単位:百万円)	2006年6月末	2006年3月末	増減	増減理由
<b>流動資産合計</b>	1,020	1,303	283	主に現預金及び売上債権の減少
有形固定資産	54	11	43	事務所移転及びデータセンター移行に伴う増加
無形固定資産	75	41	34	新サービスにかかるソフトウェア仮勘定の増加
投資その他の資産	252	62	190	余資運用分の増加
<b>固定資産合計</b>	381	114	267	
<b>資産合計</b>	1,401	1,417	16	
流動負債	108	178	70	未払法人税等の減少
固定負債	5	6	1	長期借入金の約定返済による減少
<b>負債合計</b>	113	184	71	
資本金	403	403	0	
資本剰余金	644	644	0	
利益剰余金	146	185	40	
少数株主持分	100	0	100	ドリコムジェネレーティッドメディアの少数株主持分
有価証券評価差額	6	0	6	余資運用に対するもの
<b>純資産合計</b>	1,287	1,233	55	
<b>負債及び資本合計</b>	1,401	1,417	16	

## 2007年3月期1Q 連結キャッシュ・フローの推移

(単位:百万円)	当四半期	前年同期	前年同期比	前四半期	前四半期比	増減要因
営業活動による キャッシュ・フロー	52	21	74	46	7	主に未払法人税等の支払
投資活動による キャッシュ・フロー	276	8	269	46	230	事務所移転、新製品・新サービス開発による支出及び余資運用による支出
財務活動による キャッシュ・フロー	99	28	72	946	847	主にドリコムジェネレーティッドメディアへのリクルートグループからの出資による収入
現金及び現金同等物の 期末残高	729	113	616	958	229	

なお、前年同期の数値については、監査法人のレビューを受けておりません。

## 2007年3月期1Q 売上原価・販管費の推移

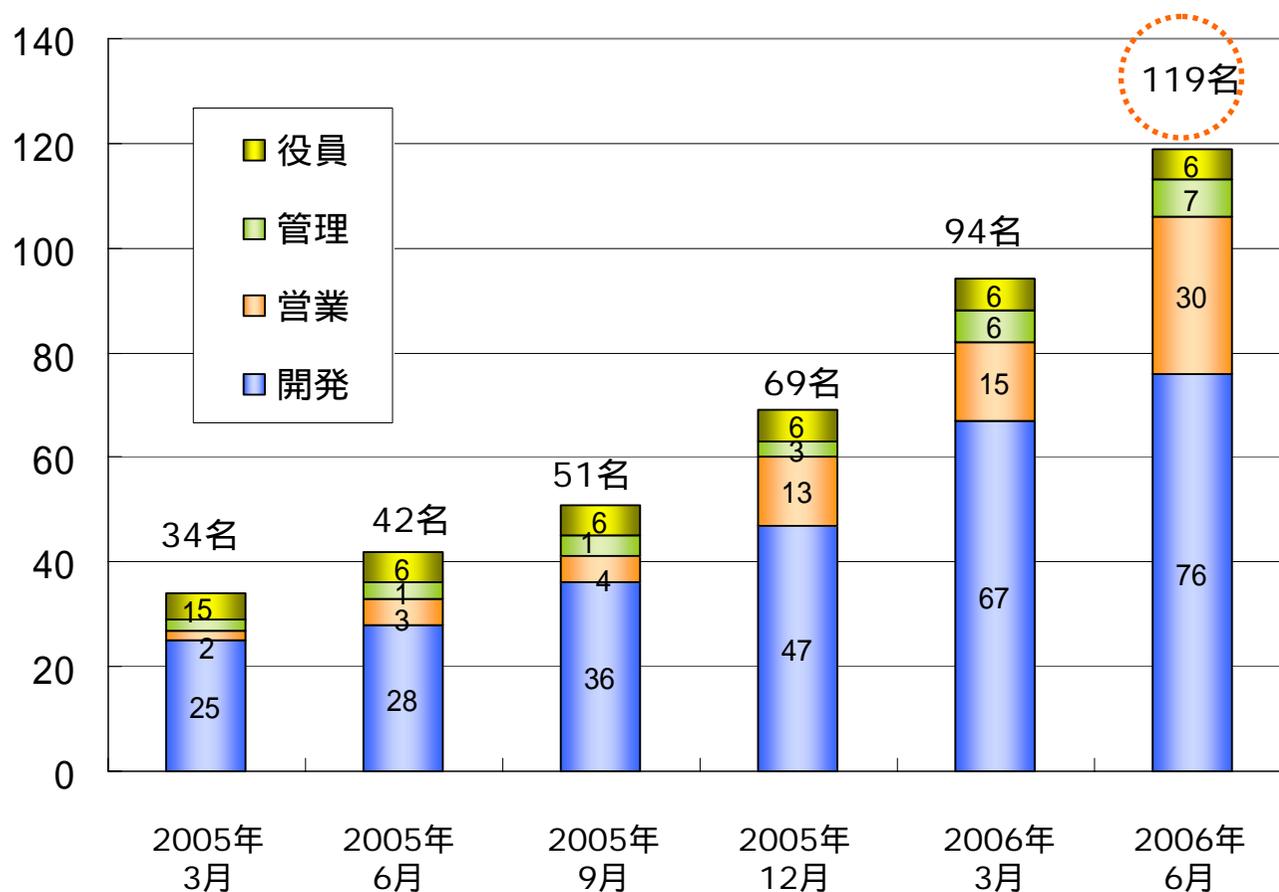
(単位:百万円)	当四半期	前年同期	前年同期比	前四半期	前四半期比	増減要因
原料費	0	0	75%	4	-96%	
労務費	65	28	129%	55	18%	人員増加に伴う増加
外注費	29	1	3513%	23	24%	アウトソーシングの積極化による増加
経費等	34	10	248%	20	75%	主に人員増加に伴う増加
仕掛品・他勘定振替等	56	5	1037%	13	323%	研究開発費等の増加
売上原価計	72	34	111%	88	-18%	
人件費	43	14	200%	29	45%	営業人員増加による増加
研究開発費	25	8	233%	9	187%	研究開発人員の増加による
その他	86	13	554%	48	79%	主に採用費等の増加
販管費計	153	35	341%	86	78%	

なお、前年同期の数値については、監査法人のレビューを受けておりません。

## 従業員数の推移

積極採用を加速度的にすすめ当四半期中に**25名増加**、**事務所拡大**

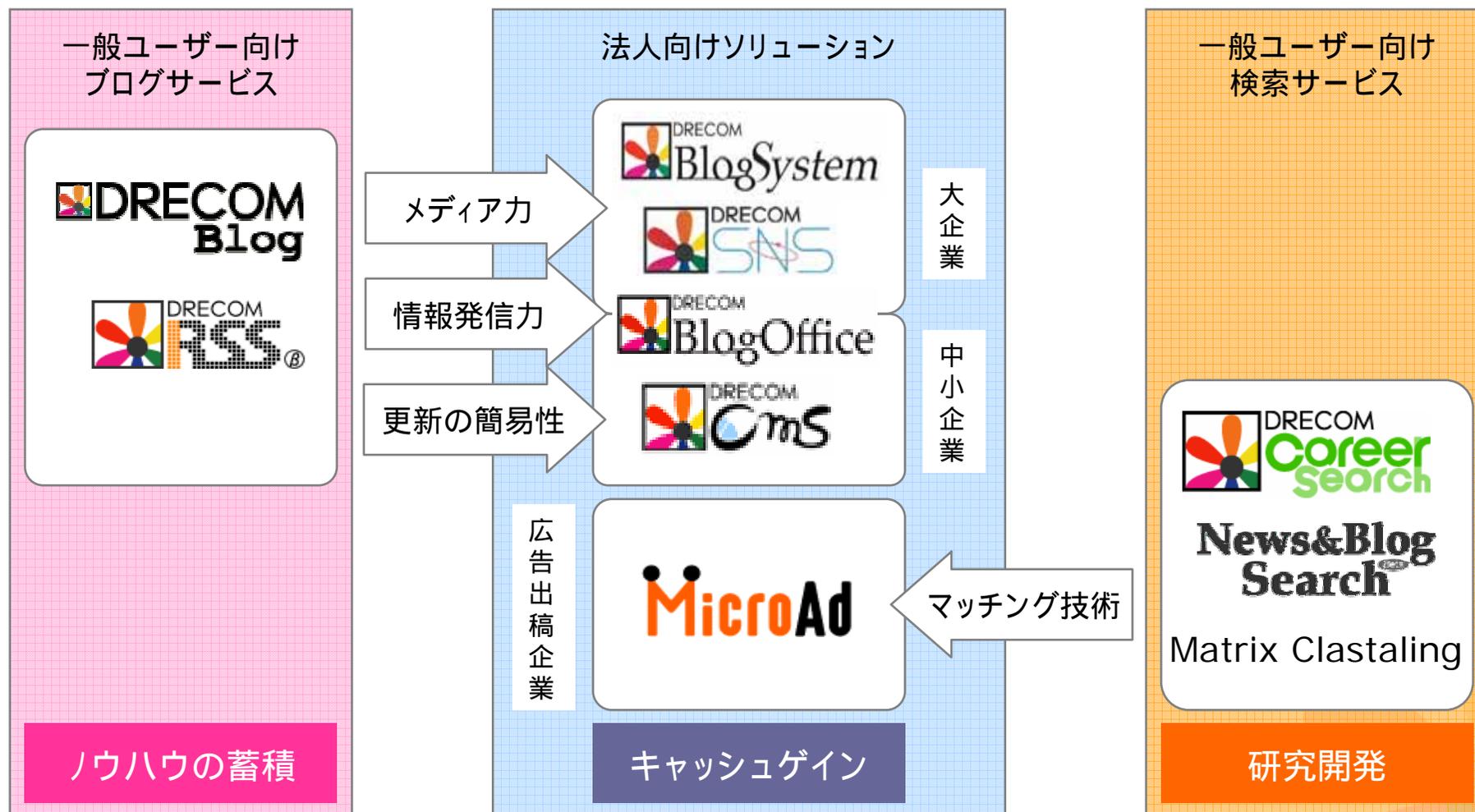
(単位:名)



- ◆ 開発については、主に研究開発人員を重点的に採用
- ◆ 営業については、拡販体制を構築すべく前期末比で倍増
- ◆ 2007年4月より新卒採用を本格開始(30名採用予定)
- ◆ 2006年4月に東京本社移転8月中に東京へ統合予定

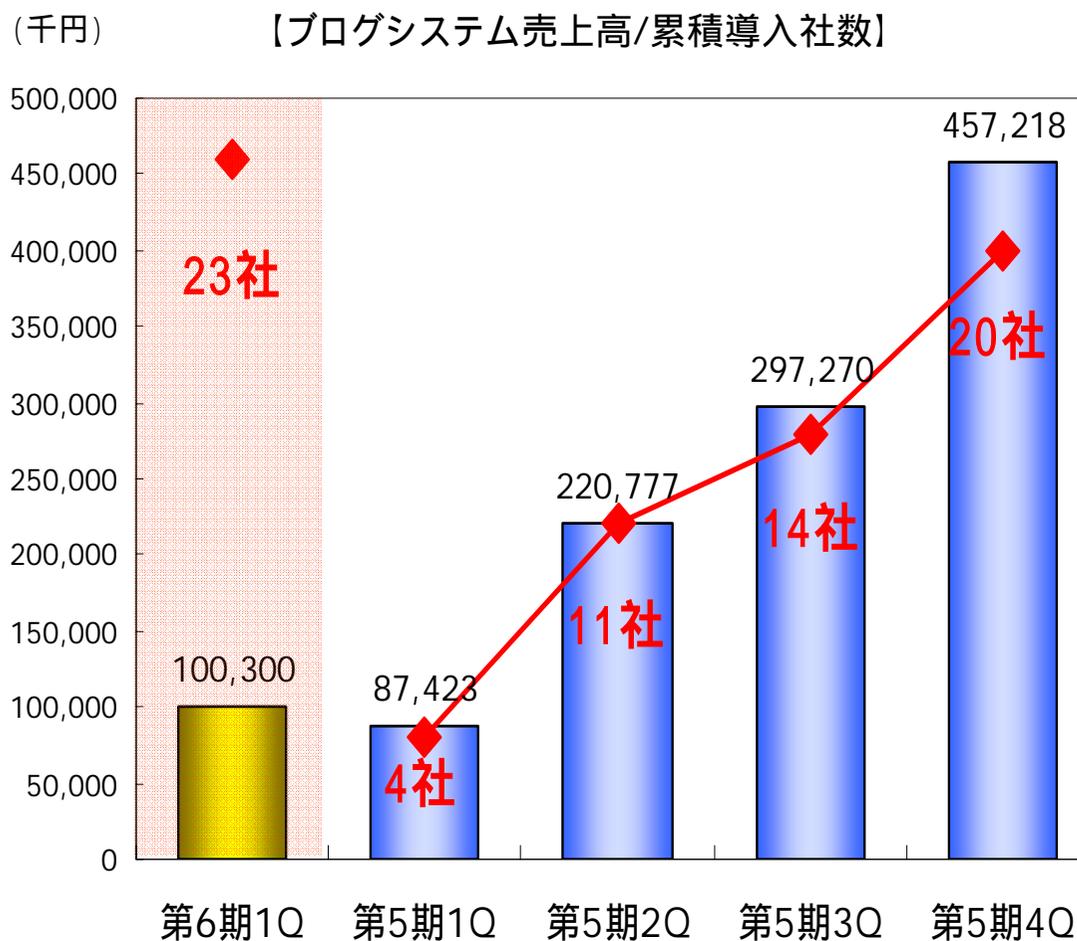
# ドリコムグループ事業構成図

## ブログ事業、検索エンジン事業を両軸に展開



# ブログ事業(ブログシステム)

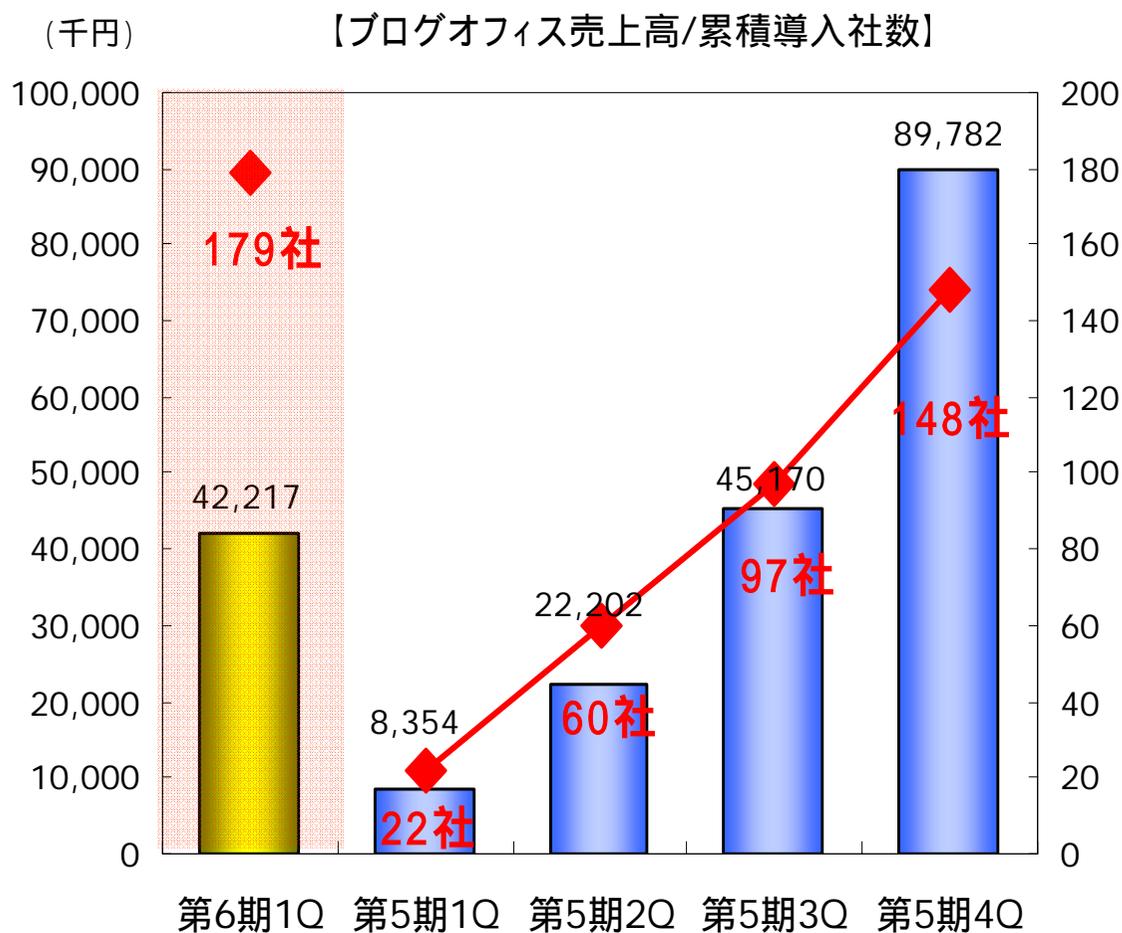
売上高: **100,300千円**、累積導入社数: **23社**



- ◆ web2.0ブームによりブログやSNSサービス (CGM) に対する関心が引き続き高まっている
- ◆ 市場ニーズは依然高く、弊社ブランド及び知名度の向上により問合せが増加、かつ受注率が向上
- ◆ SNSの市場ニーズの高まりに対応して、ドリコムSNSをリリース
- ◆ 当四半期売上高は、前年同期比で15%増加一方、前四半期比では季節的変動の影響により37%となった。

# ブログ事業(ブログオフィス)

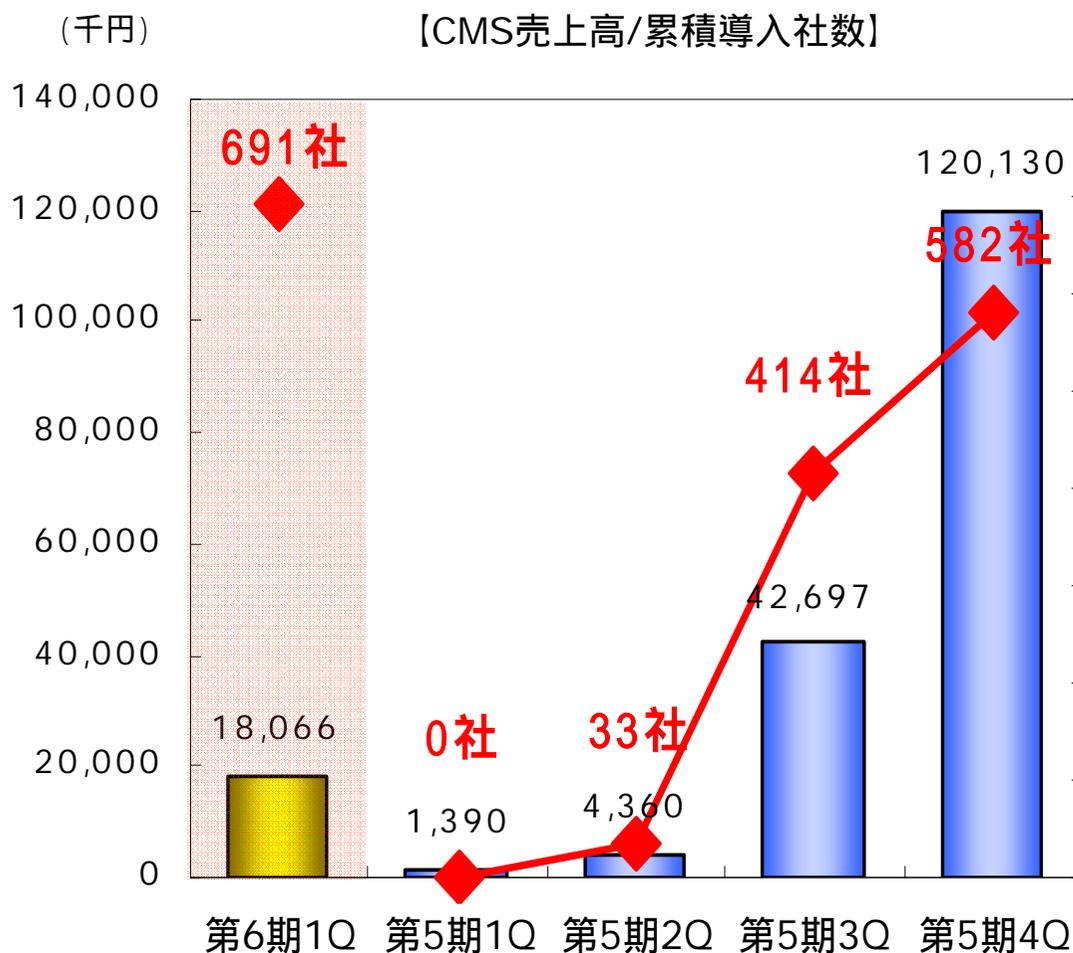
売上高: **42,217千円**、累積導入社数: **179社**



- ◆ 弊社ブランド及び製品知名度の向上により問合せが増加、かつ受注率が向上
- ◆ 前年同期比4.1倍と順調に売上増加
- ◆ 官公庁をはじめ、多種多様な企業に導入
- ◆ 一部署導入から全社導入へ発展する案件の増加
- ◆ 機能開発を進め、拡販版をリリース

# ブログ事業(CMS)

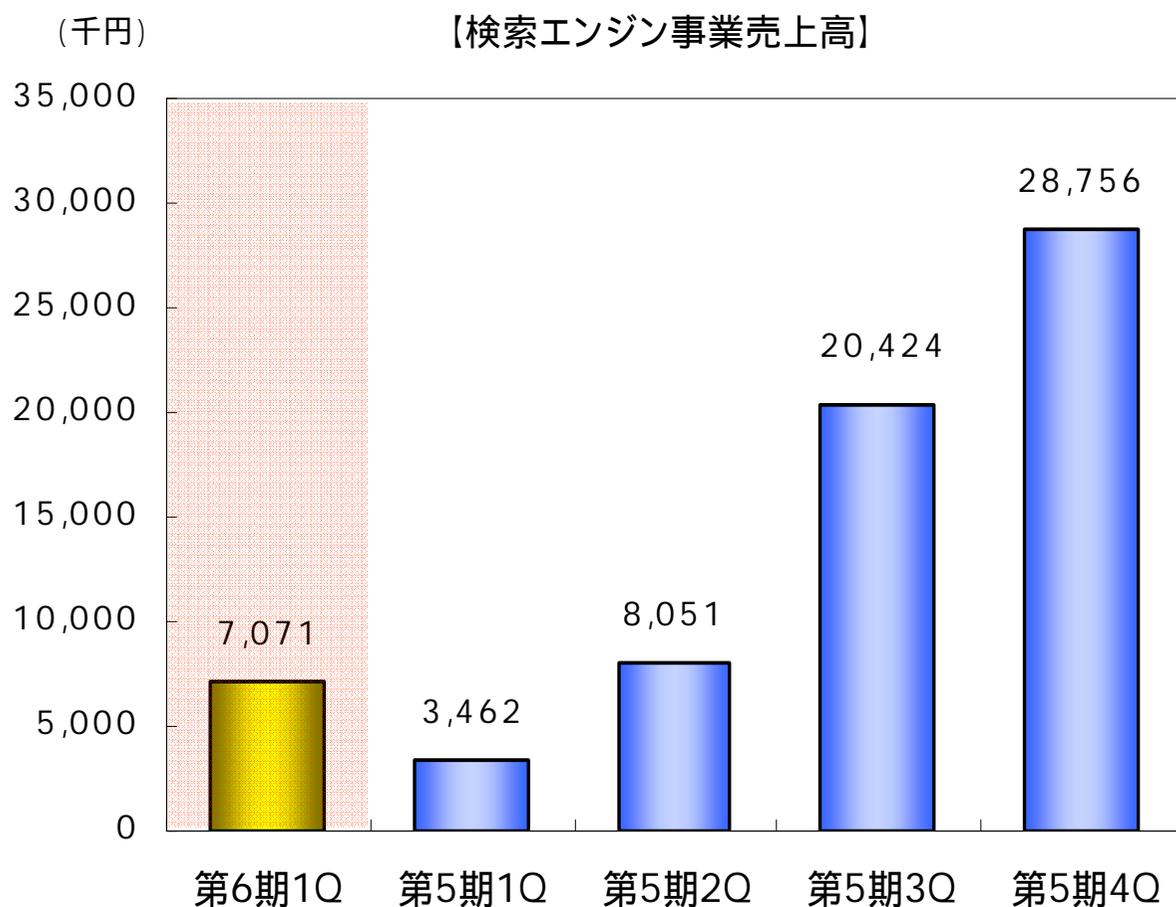
売上高: **18,066千円**、累積導入社数: **691社**



- ◆ 啓蒙活動及び競合製品の出現等により市場が急速に拡大
- ◆ 前四半期比で売上高が減少しているのは、前四半期に一括パッケージ売上があったことによる影響
- ◆ 価格体系の見直し(7月1日)  
 初期 98,000円 48,000円  
 ランニング 4,500円/月 9,600円/月
- ◆ 拡販体制構築のための営業人員大幅増員
- ◆ プロトコーポレーション社及びSo-net社をはじめ各社と業種別のサービスパックをリリース
- ◆ 130社以上の代理店開拓中

# 検索エンジン事業

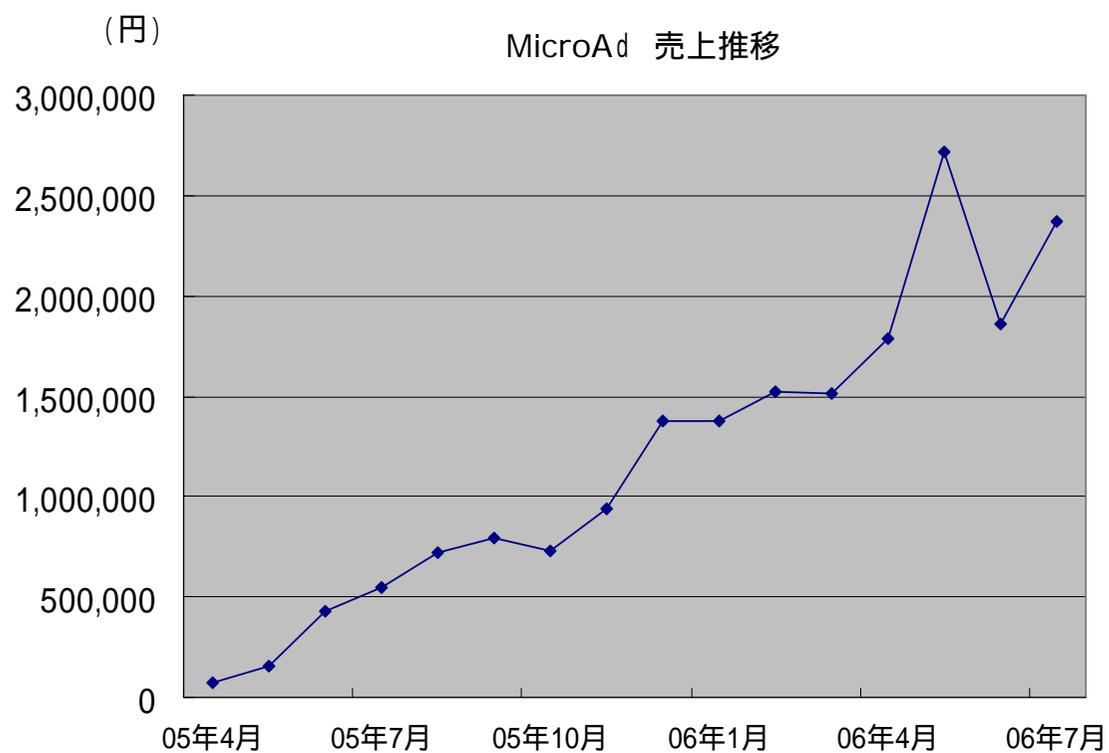
売上高: **7,071千円**、前年同期比: **104%増加**



- ◆ インターネット広告市場は急速に拡大中
- ◆ サイバーエージェント社との共同事業である「MicroAd (旧BlogClick)」が好調
- ◆ 新サービス開発のための研究開発人員を大幅増員
- ◆ 「ドリコムキャリア」を「ドリコムキャリアサーチ」としてリニューアル
- ◆ 2006年6月1日付でドリコムジェネレーティッドメディアを新設
- ◆ ドリコムジェネレーティッドメディアにおいて、リクルートグループとBtoC向けの新サービスを開発中
- ◆ 第5期3Q、4Q比較で、受託開発売上等があったことによる反動で売上高は減少

# 検索エンジン事業

## MicroAdは前年同期比9.6倍の高成長

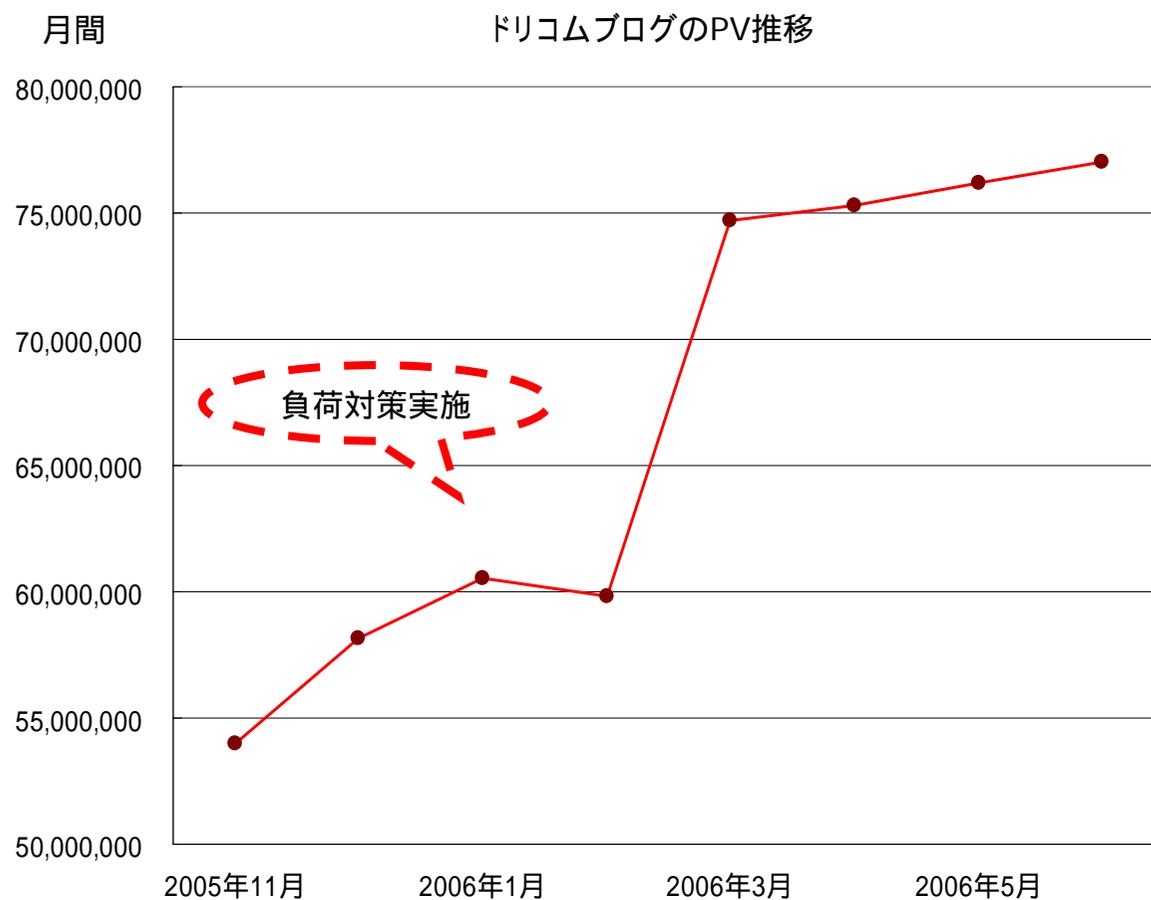


- ◆ 6月にBlogClickからMicroAdにリニューアル
- ◆ 個人ユーザーの利用可能に
- ◆ 今後は行動ターゲティング広告へ拡大



# ドリコムジェネレーティッドメディア

## ドリコムブログのPV拡大 ドリコムキャリアのリニューアル実施



- ◆ 1月に負荷対策を実施し、PV増へ
- ◆ ドリコムキャリアをドリコムキャリアサーチにリニューアル
- ◆ CGM × 広告の研究開発中

## 2007年3月期 連結業績の見通し

2007年3月期はプログビジネスの市場拡大により引き続き売上高、経常利益ともに増加の見通しであります。また、2007年3月期上期は下期、翌期を見越した積極的な投資活動を行っていく予定であります。具体的には、商品の改良、販売体制の強化、データセンターの統合、BtoCサービスのID統合、2007年4月入社新卒社員採用などであり、結果として中間の見通しは経常利益、純利益ともに0円を見込んでおります。

また、2006年6月1日に設立した株式会社ドリコムジェネレーティッドメディアの売上高については、新サービスのリリース前であり、現時点で未確定のため下記の見通しには含めておりません。業績に重大な影響を与えることが判明した時点で速やかにお知らせいたします。

なお、業績に関しましては、当初の想定どおりに推移しており、2006年5月10日公表時点から修正をしておりません。

(単位:百万円)	2006年3月期 (実績)	2007年3月期 (見通し)	2007年3月期中間 (見通し)
売上高	703	1,500	500
経常利益	225	400	0
純利益	124	230	0

インターネットの事業を取り巻く環境は短期的に大きく変動する可能性があり、また特に当社は積極的に新規事業への取り組みを行っているため、通期の業績見通しについては信頼性の高い数値を算出することはきわめて困難であり、実際の業績はさまざまな要素により見通しと大きく異なる結果になりえることをご了承ください。

# 世界に通じるインターネットサービスのものづくり企業



本資料に記載いたしました認識、戦略、計画などのうち、見通しは、歴史的事実ではなく、不確実な要素を含んでおります。

実際の業績は、さまざまな要因により見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご了承願います。

実際の業績に影響を与える重要な要因には、当社の事業を取り巻く経済情勢、社会的動向、当社の提供するサービス等に対する需要動向による相対的競争力の変化などがあります。

なお、業績に影響を与える重要な要因は、これらに限定されるものではありません。